

町会活動に関するアンケート調査 報告書

平成24年 3 月

八尾市

<<目次>>

町会活動に関するアンケート調査結果(町会長・自治振興委員、市民)の概要.....	1
町会活動に関するアンケート調査【町会長・自治振興委員】.....	23
町会活動に関するアンケート調査【市民】.....	95

町会活動に関するアンケート調査結果 (町会長・自治振興委員、市民) の概要

I. 調査の概要

1. 調査の目的

八尾市における町会活動や町会加入促進活動の現状と課題を把握し、町会のあり方についての検討を行う際の参考資料とする。

2. 調査の方法

項目	町会長・自治振興委員	市民
調査対象	八尾市町会長・自治振興委員 808人	八尾市在住の20歳以上の男女 2,000人（無作為抽出）
調査方法	職員による直接配布・直接回収	郵送による配布・回収
配布数	808	2,000
回答数	807	896
有効回答数	806（有効回答率：99.8%）	896（有効回答率：44.8%）
調査期間	平成23年9月15日 ～平成23年9月30日	平成23年9月22日 ～平成23年10月5日

（1）回収状況

「N＝」は、当該質問の回答者数を表しており、パーセントを算出する時の母数である。なお、集計に当たっては、小数点第2位以下を四捨五入しているため、パーセントの合計は必ずしも100%にならない場合もある。

また、複数回答の質問では、パーセントの合計は100%を超える。

（2）補足

町会長・自治振興委員アンケートの配布数・有効回答数と町会数（調査時点で754）については、以下の理由により異なっている。

- ①一つの町会に、町会長と自治振興委員の2人が存在する場合には、双方にアンケート用紙を配布しており、双方とも回答していただいている。
- ②届出上は複数の町会だが、実態としては一つの町会として運営・活動している場合があり、一つの町会として回答している可能性がある。（大規模なマンションに見られる。）

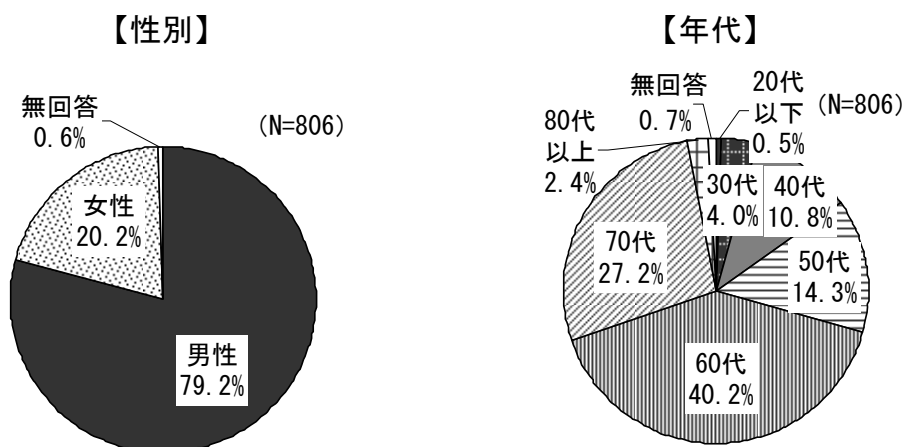
Ⅱ. 調査結果のまとめ

1. 町会長の属性・町会活動の概要

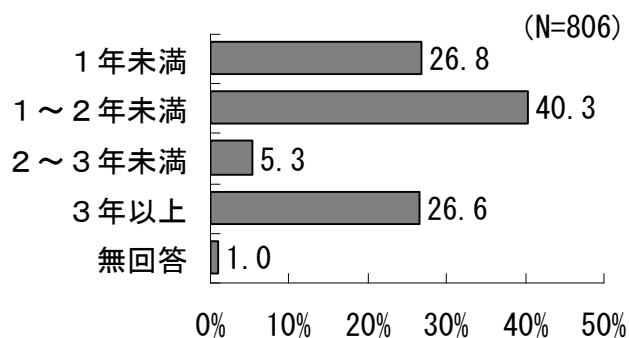
- ・ 町会長は男性が多く、また60代、70代の方が多い。
- ・ 就任年数は1～2年未満、1年未満、3年以上と様々であり、選出方法は自薦・他薦が多く、ついで持ち回り制、抽選・くじ引きとなっている。

■町会長の属性

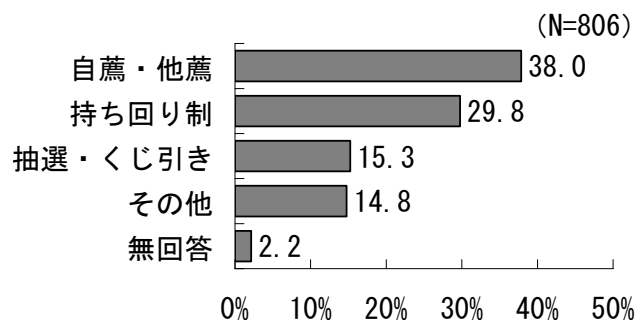
(1) 性別・年代



(2) 就任年数



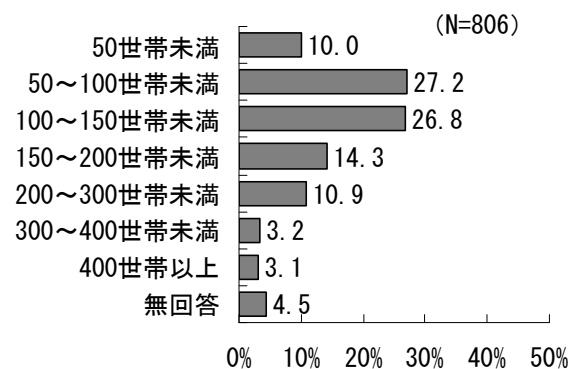
(3) 選出方法



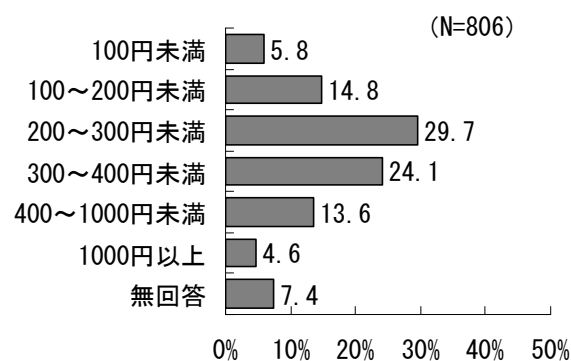
- ・ 町会あたりの世帯規模は50世帯～150世帯未満が多く、町会費の世帯当たり月額は200円～400円未満が多い。
- ・ 各種募金や献金活動、スポーツ祭や各種スポーツ、有価ごみや廃品回収、慶弔の世話、防火、防犯、防災活動などを行っている町会が多い。
- ・ イベント、集会所設置・管理、レクリエーションは市民の認知度が高いが、参加率は低い。
- ・ 市民の約3割は、町会が防犯灯の設置・維持管理を行っていることを知らない。

■町会活動の概要

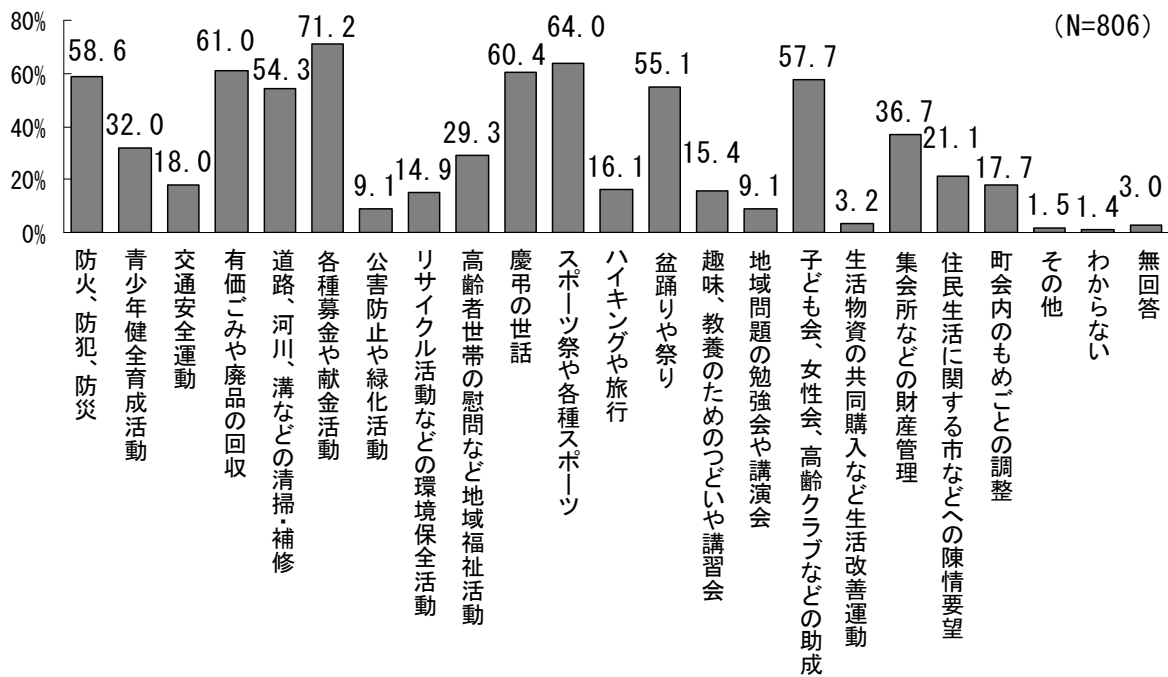
(1) 町会あたりの世帯規模（町会長アンケート）



(2) 町会費（月額）（町会長アンケート）



(3) 活動内容（町会長アンケート・複数回答）



(4) 認知・参加状況（市民アンケート・複数回答）

	活動	認知	参加
認知度が高く、参加率も高い活動	市政だよりや指定ごみ袋の配布	96%	89%
	回覧板の回覧や掲示板の管理	94%	79%
	募金	80%	68%
	地域内の清掃活動	79%	54%
認知度は高いが、参加率が低い活動	盆踊りやお祭りなどのイベント	89%	40%
	集会所などの設置・管理	76%	42%
	レクリエーション(花見など)	63%	17%

[その他]

防犯灯の設置・維持管理
の認知度(71%)



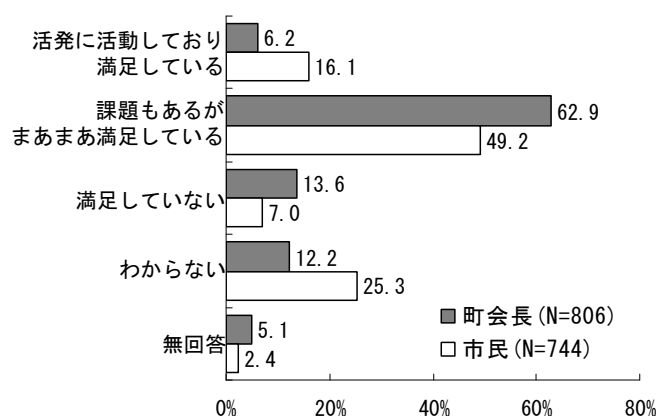
約3割が知らない

2. 町会活動に対する満足度・町会長が特に苦労している取り組み・参加状況の課題

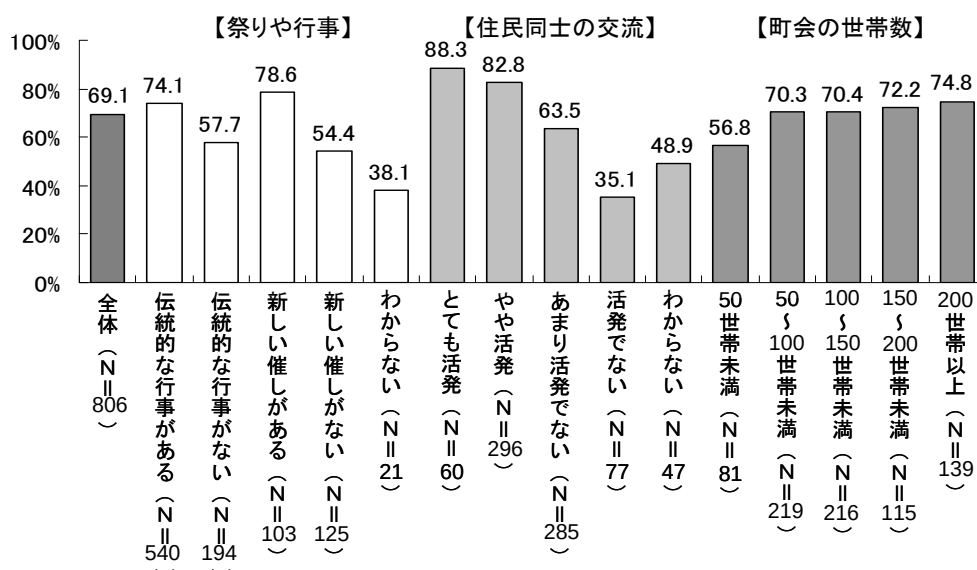
- ・ 町会長・市民とも、町会活動に対して、課題もあるがまあまあ満足と感じている人が多い。
- ・ 新しい催しがある地域、住民同士の交流が活発な地域では、町会長の満足度が高い。また、世帯数が多いほど満足度が高くなる傾向がみられる。
- ・ 町会長として特に苦労している取り組みは、後任や役員の確保、行事・イベントの参加者の確保、行事・イベントの準備・開催など。
- ・ 町会長の約半数が、町会活動に特定の人しか参加していない、あるいは活動への参加者が少ないと考えている。

■町会活動に対する満足度

(1) 全体（町会長アンケート・市民アンケート）



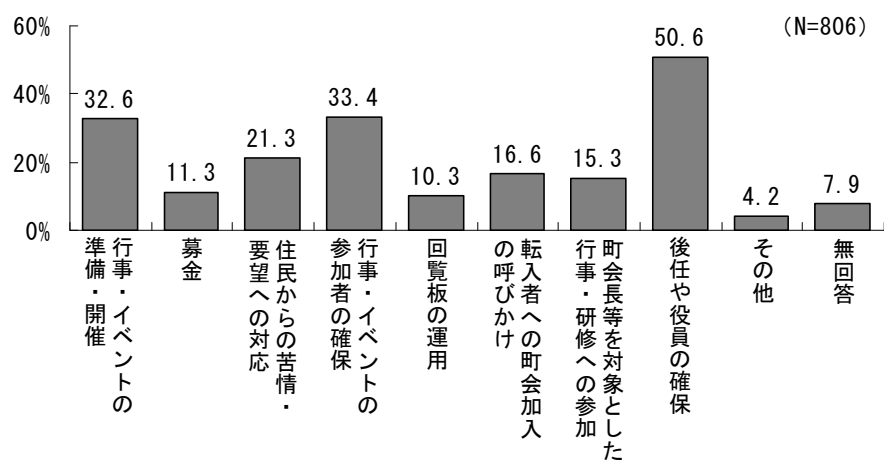
(2) 町会の状況別にみた「満足している（※）」の割合（町会長アンケート）



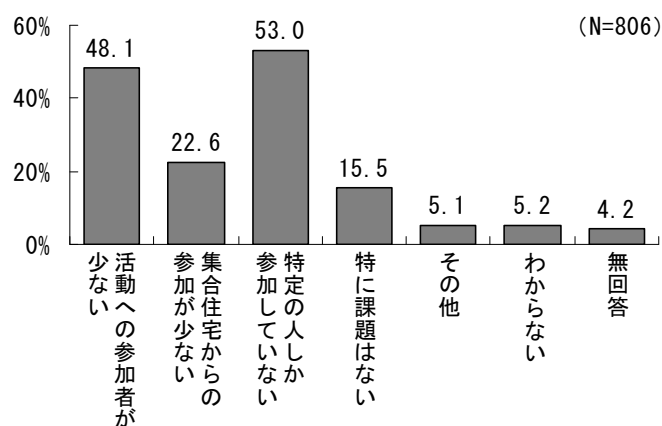
(※)「満足」と「まあまあ満足」の合計

■町会活動に対する満足度

(3) 町会長が特に苦労している取り組み・課題（町会長アンケート・複数回答）



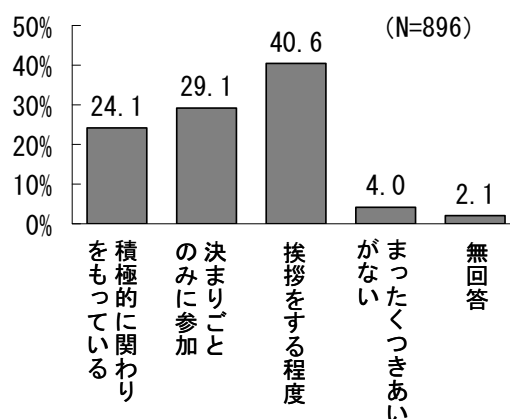
(4) 町会活動への住民の参加状況の課題（町会長アンケート・複数回答）



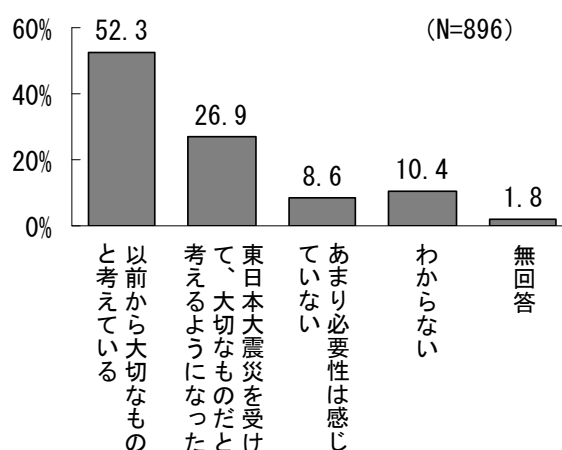
3. 市民の近隣とおつきあいの状況・地域活動への参加意向

- ・ 近隣の人と積極的に関わりをもっている人はそれほど多くはないが、以前からつきあいは大切なものと考えている人、東日本大震災を受けて大切だと思えるようになった人は多い。また、大規模災害時には、約半数が互いに助け合えると考えている。
- ・ 地域活動に関わりたくないと考えている人はごく少数で、約8割の市民は活動に参加・協力する意向を持っている。
- ・ 町会活動をより良くするためには、誰もが参加しやすい企画・運営や、情報伝達・共有の充実、役員負担の軽減などが求められている。

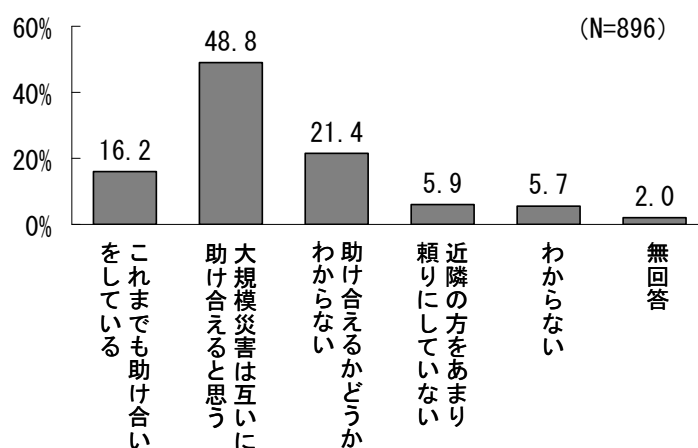
(1) 近隣とおつきあいの状況（市民アンケート）



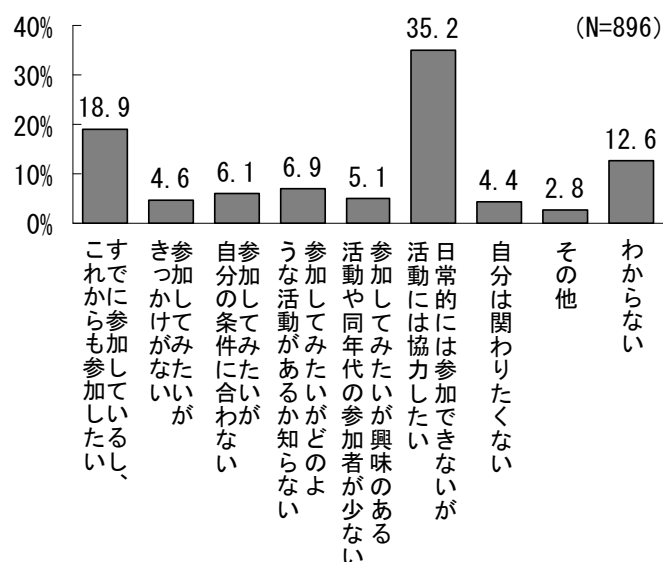
(2) 近隣とのつきあいについての考え方（市民アンケート）



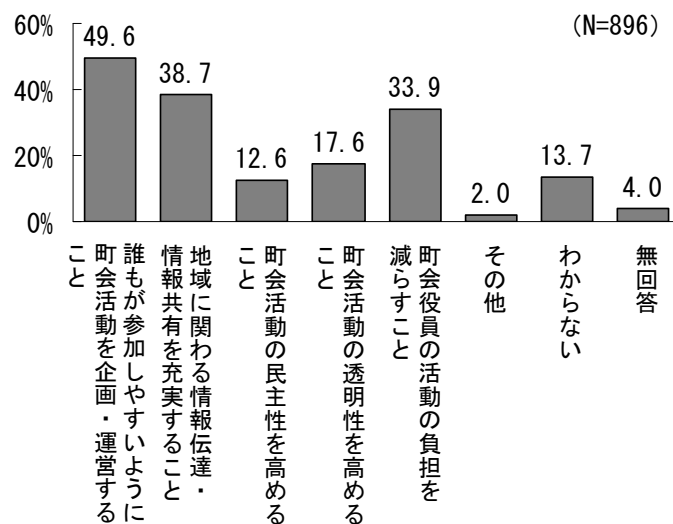
(3) 大規模災害時の近隣での助け合い（市民アンケート）



(4) 地域活動への参加協力の意向（市民アンケート）



(5) 町会活動をより良くする活動（市民アンケート・複数回答）



(6) 町会活動について市民が考えていること（市民アンケートの自由記述から）

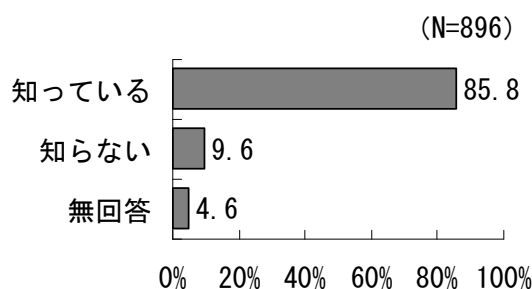
- ・ 近所づきあいを通じて、住民同士が支え合い、助け合うことが必要。
- ・ 気軽に参加できる場所や催しがあればよい。
- ・ 若い世代にも参加してもらいたい。
- ・ 新しい住民が馴染めるような配慮をしてほしい。
- ・ 町会加入のメリットを示してほしい。

4. 町会の認知度・町会への加入状況

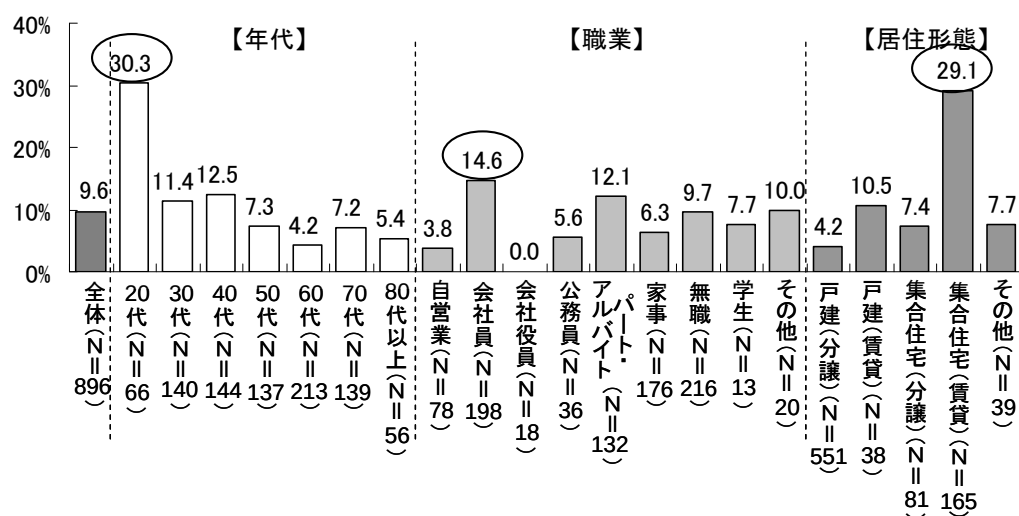
- ・ 市内各地で町会が結成されていることは、8割以上の人知っている。
- ・ 一方、町会が結成されていることを「知らない」という回答は、20代、会社員、集合住宅（賃貸）の住民に多い。
- ・ 町会に加入している市民は8割を超える。
- ・ 「加入していない」という回答は、町会の認知度と同様、20代、会社員、集合住宅（賃貸）の住民に多い。
- ・ 住宅の種類別では、戸建と集合住宅（分譲）では加入している割合が高いが、集合住宅（賃貸）では未加入の割合が高い。

■町会結成の認知度

（１） 全体（市民アンケート）

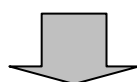
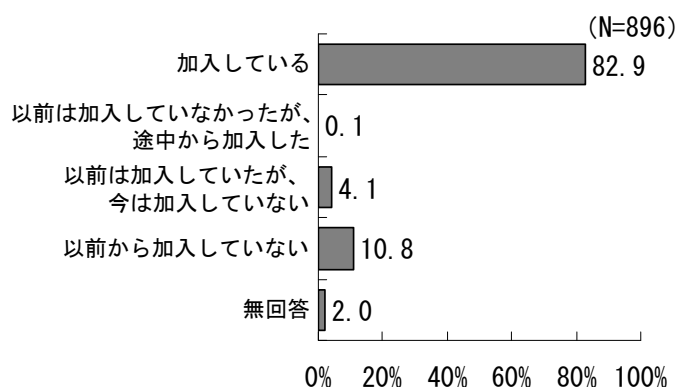


（２） 年代・職業・居住形態別にみた 「知らない」 の割合（市民アンケート）

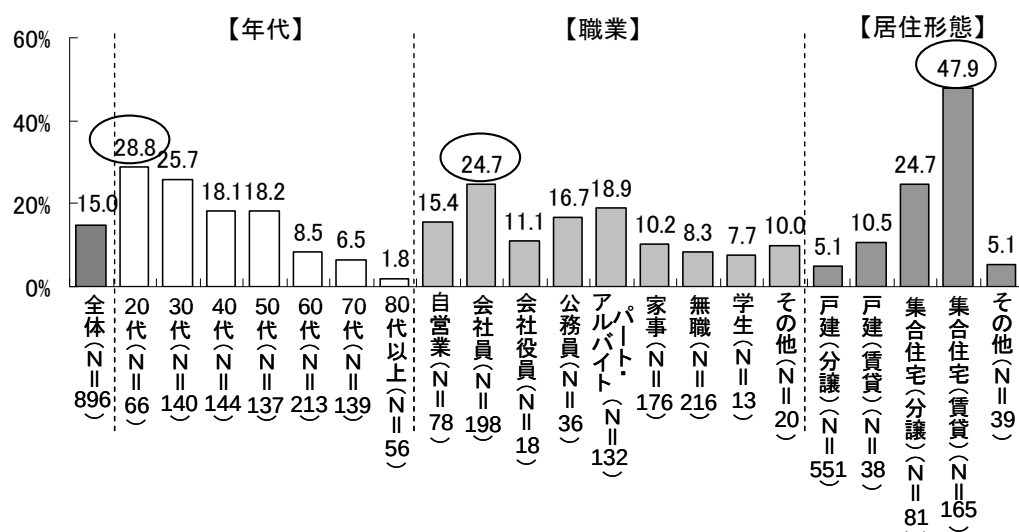


■町会への加入状況

(3) 全体（市民アンケート）



(4) 年代・職業・居住形態別にみた「加入していない」の割合（市民アンケート）



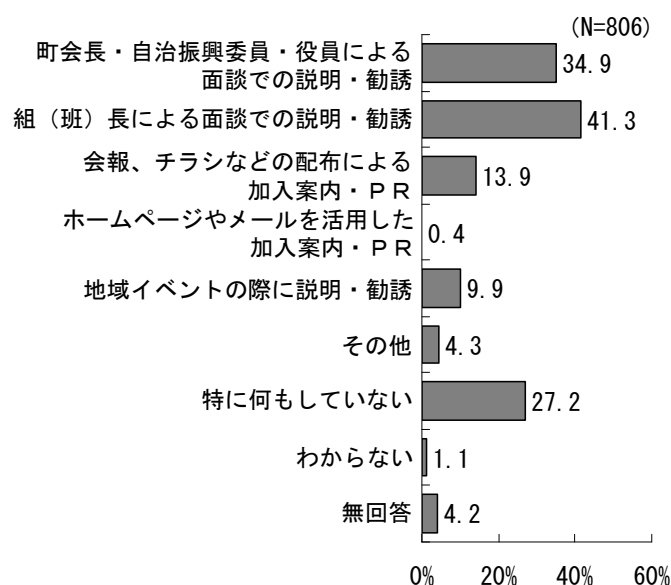
(5) 住宅の種類別にみた加入状況（町会長アンケート）

	ほとんど加入	半数以上加入	ほとんど未加入	わからない
戸建住宅	90%	9%	1%	1%
集合住宅（分譲）	53%	22%	13%	13%
集合住宅（賃貸）	35%	24%	34%	7%
寮・社宅	19%	6%	23%	52%

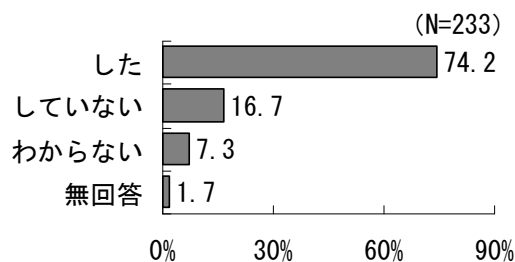
5. 町会加入促進のための取り組み

- ・ 町会加入を促進するための取り組みとしてよく行われているのは、町会長や組（班）長等による転入者への面談での説明である。また、集合住宅建設や住宅地開発があった際には、7割以上の町会長が、加入促進のための取り組みを行っている。
- ・ 約2割の市民が、町会長や組（班）長等による勧誘が町会加入のきっかけになったと回答している。
- ・ 町会未加入者では、町会があることを知らなかったとの回答が約4割、加入するきっかけがなかったとの回答が約3割で、加入の必要性を感じていないとの回答は約2割にとどまっている。
- ・ 勧誘にあたっての工夫や効果があった取り組みとしては、転入者に対する働きかけをすぐに行うこと、町会加入のメリットを示すこと、開発指導段階に施主やオーナー、管理会社に働きかけを行うことが挙げられている。

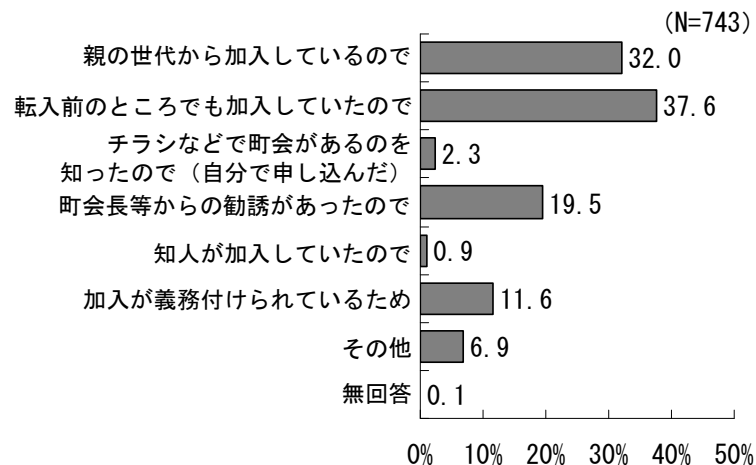
（1） 加入促進の取り組み（町会長アンケート・複数回答）



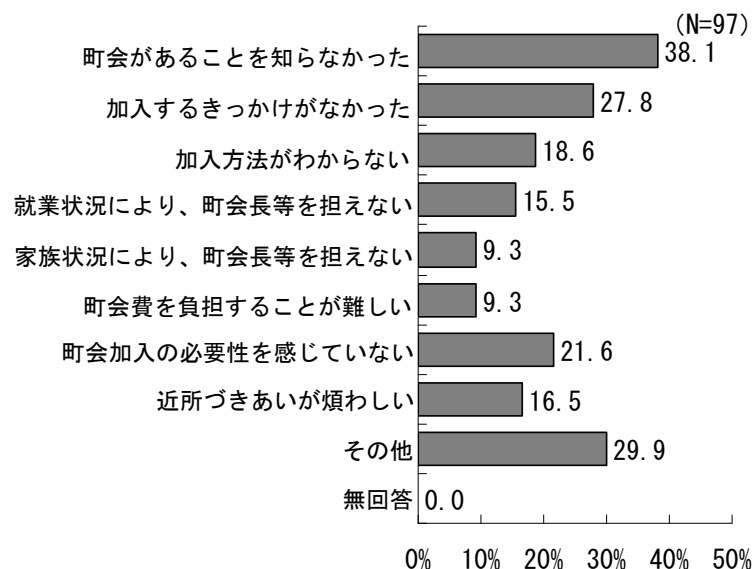
（2） 集合住宅・住宅地開発の際の取り組み（町会長アンケート）



(3) 町会加入のきっかけ（市民アンケート・複数回答）



(4) 町会未加入の理由（市民アンケート・複数回答）



(5) 勧誘にあたっての工夫や効果があった取り組み（町会長アンケートの自由記述から）

- ・ 引っ越しから時間を置かず、組（班）長と役員がペアで訪問。
- ・ 町会加入のメリットを記載した資料を作成。
- ・ 賃貸マンションのオーナーとの連絡体制を強化。
- ・ 防災の観点から勧誘。
- ・ 町会費の値下げ。
- ・ 地域のイベント開催時に町会をPR。

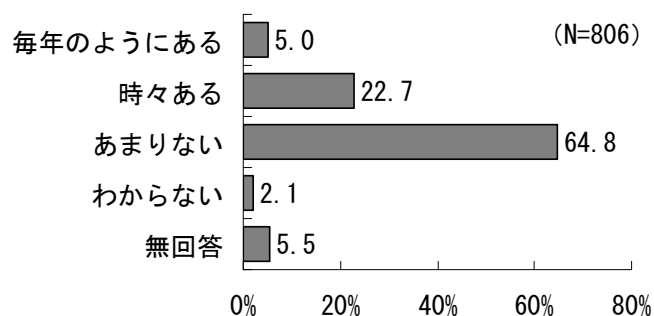
[集合住宅建設・住宅地開発時]

- ・ 住宅建設段階で施主やオーナーに働きかけ。
- ・ 建設が決定した際、建築主に町会の規約を渡し、加入をお願い。
- ・ 集合住宅の管理会社との間で、入居の契約時に町会加入を条件とする旨の取り決めをした。
- ・ ワンルームマンションは出入りが激しいため、戸別ではなくマンションとして加入してもらった。

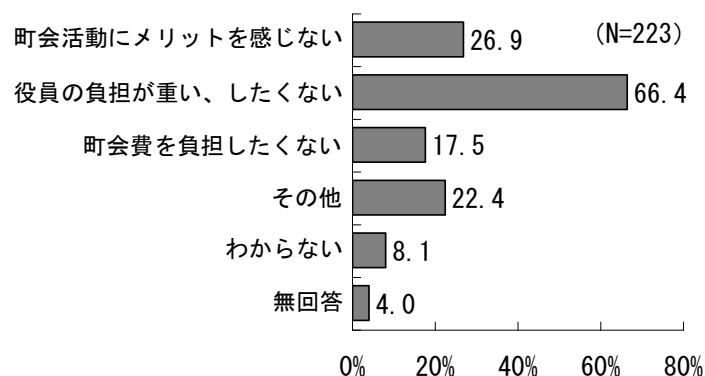
6. 退会を防ぐための取り組み

- ・ 約3割の町会で退会がある。また、退会する可能性がある市民も約1割いる。
- ・ 退会の理由として、町会長の約7割が役員の負担を挙げており、市民についても、「町会長等を担えなくなった」とする割合が高くなっている。
- ・ 負担軽減策を設けている町会は1割に満たないが、市民の約7割が高齢者が加入継続できるような配慮が必要であると考えている。
- ・ 町会における負担軽減策としては、一人暮らし高齢者等世帯の状況に応じた役員負担の軽減や、町会費の減額・引き下げなどが挙げられている。

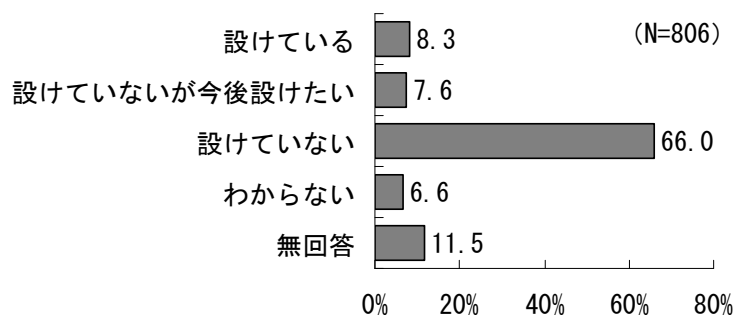
(1) 町会退会のケース（町会長アンケート）



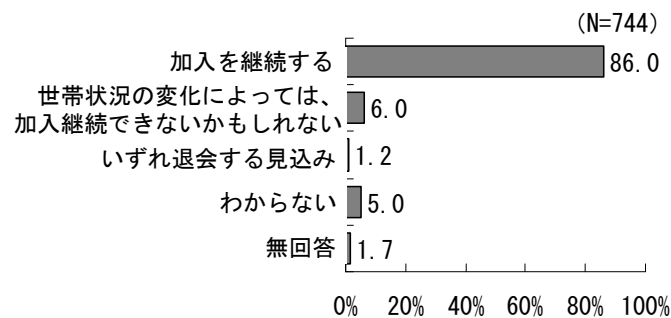
(2) 町会退会の理由（町会長アンケート・複数回答）



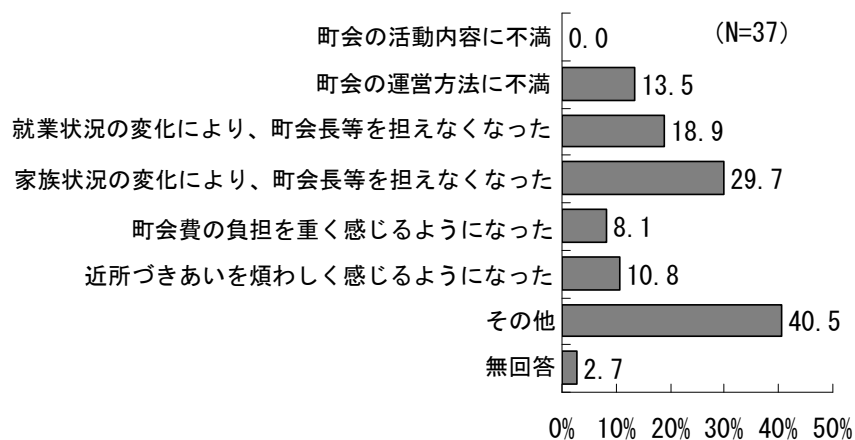
(3) 負担の軽減策（町会長アンケート）



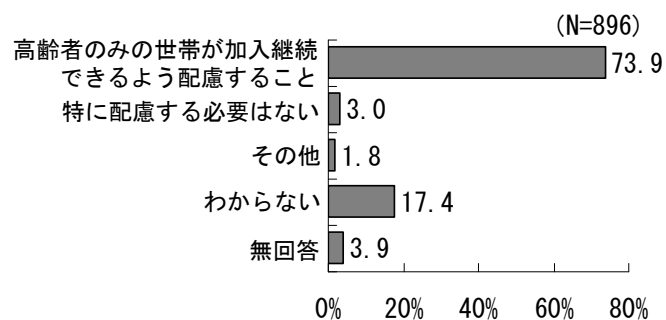
(4) 町会加入の継続意向 (市民アンケート)



(5) 町会退会の理由 (市民アンケート・複数回答)



(6) 高齢者の世帯への配慮 (市民アンケート)



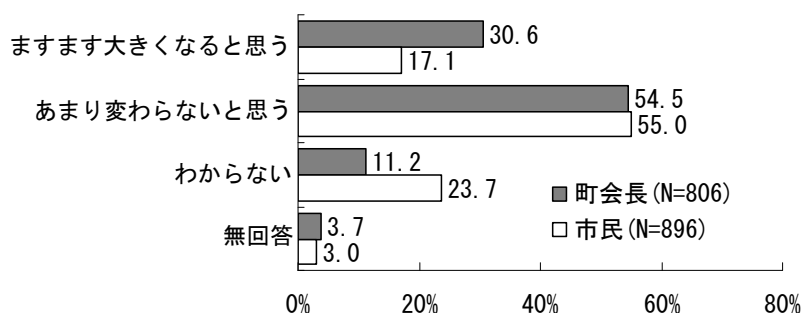
(7) 勧誘にあたっての工夫や効果があった取り組み (町会長アンケートの自由記述から)

- ・ 世帯の状況に応じて役員の負担を軽減している。
- ・ 高齢者に対する役員の負担を軽減している。
- ・ 世帯の状況に応じて町会費を減額している。
- ・ 町会費の引き下げを行った。

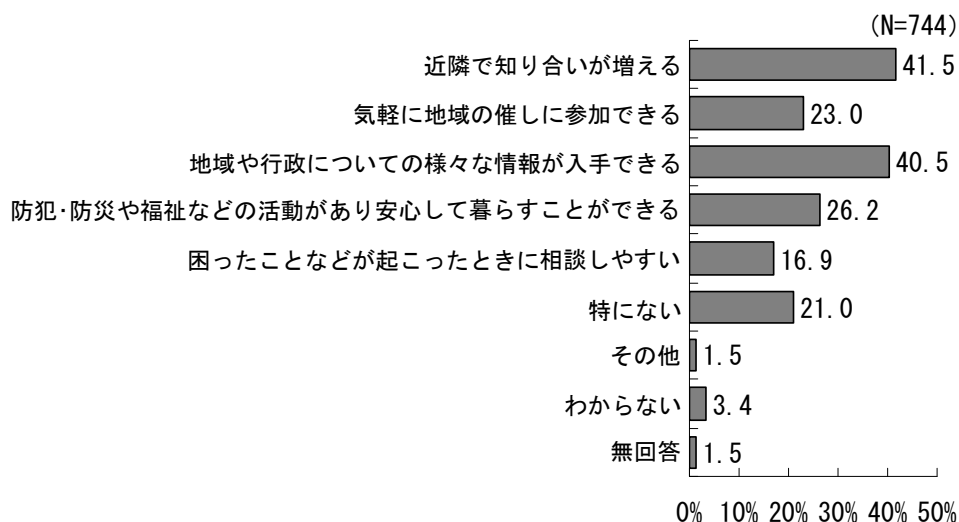
7. 今後の町会が担う役割・町会に加入してよかったと思うこと・町会加入促進で行政に求める取り組み

- ・ 町会長では、今後の町会が担う役割がますます大きくなると考えている人が多い。
- ・ 市民は、近隣で知り合いが増えることや、地域や行政についての情報が入手できること、防犯・防災、地域福祉活動などにより安心して暮らすことができることなどをメリットとしてとらえている。こうした点を、加入呼びかけの説明をする際に働きかける（メリットを明確にする）ことが重要である。
- ・ 町会加入促進のために行政に求める取り組みとして、町会長では、行政窓口での加入促進、開発業者・不動産業者への協力要請、ちらしの配布等が求められている。また、市民では、行政窓口での加入促進に加えて、転入（転居）手続き時に町会の連絡先を伝達することが求められている。

（１） 今後の町会が担う役割（町会長アンケート・市民アンケート）

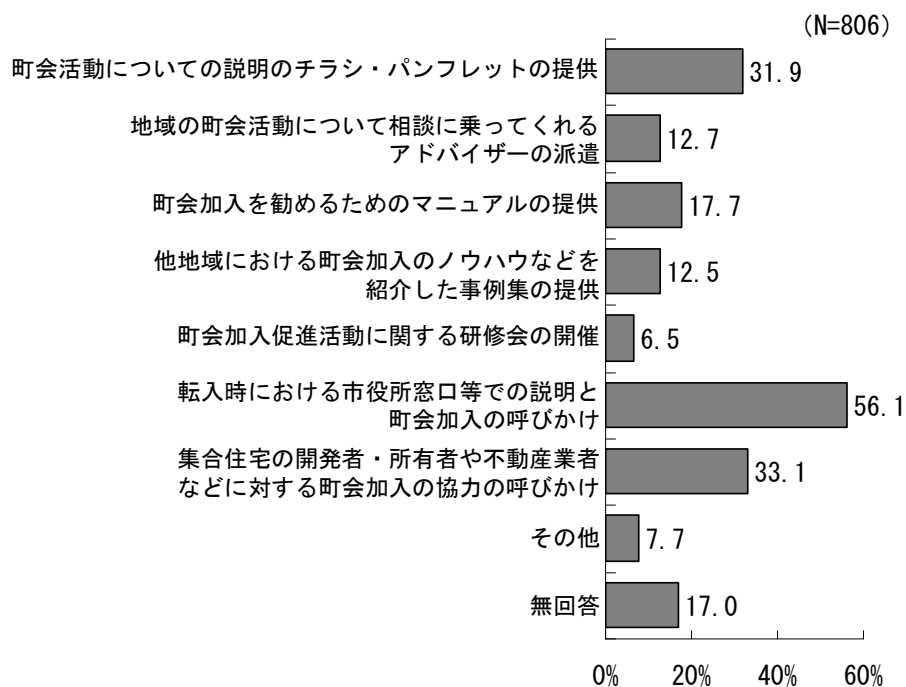


（２） 町会に加入してよかったと思うこと（市民アンケート・複数回答）

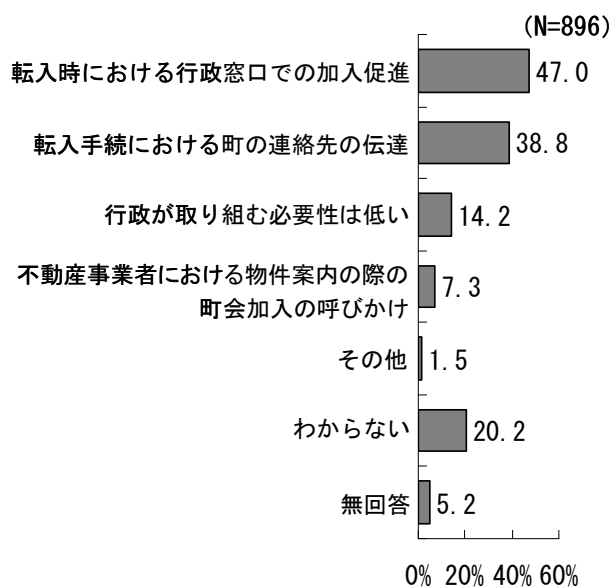


■町会加入促進で行政に求める取り組み（町会長アンケート・市民アンケート・複数回答）

（１） 町会長



（２） 市民



8. 町会加入促進に向けて

- ・ 町会に加入している市民は、知り合いができることや安心して暮らせることなど、加入のメリットを感じている。
- ・ 町会未加入の市民については、加入する意思がないのではなく、加入するきっかけがないという理由が多く、町会役員等から直接声をかけることにより加入に結びついたケースは多い。このことから、開発指導段階の業者への声かけをするなど、できるだけ早い段階で町会加入のアプローチをすることは効果的であると考えている。
- ・ 上記のような町会加入のメリットを、あらゆる機会を活用して訴えかけることにより、加入促進を推進していくことが求められる。
- ・ ある程度の規模で、住民同士の交流を活発に行うことで、さらに活動への参加・協力が増える「良い循環」が生まれると考えられる。

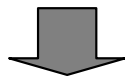
(1) まとめ（１～７までの振り返り）

- ・ 町会長は、町会活動への参加者が少ないことが課題であると考えており、行事やイベントの参加者や役員の確保に苦労している。（P. 7～8）
- ・ 一方、市民は、活動に参加する意向はあるものの、負担の軽減なども含めて、誰もが参加しやすい企画や運営を求めている。（P. 9～11）
- ・ 町会があることを知らない市民は、20代、会社員、集合住宅（賃貸）の住民で多く、未加入についても同様の傾向がみられる。（P. 12～13）
- ・ 町会未加入の理由については、加入する意思がないのではなく、町会があることを知らなかった人、また、加入するきっかけがなかった人が多い。（P. 14～15）
- ・ 町会から直接声をかけることが町会加入のきっかけになったケースは多く、転入（転居）時の早期アプローチをすることが効果的である。（P. 14～15）
- ・ また、集合住宅建設や住宅地開発の際には、関係する業者やオーナーに早期アプローチすることも重要である。（P. 14～15）
- ・ 加入している市民の多くは加入を継続する意向を示している。（P. 17）
- ・ 退会を検討する主な理由は、高齢になり役員が担えなくなることであり、高齢者世帯への配慮が求められている。言い換えれば、世帯の状況に応じて負担を軽減することが、退会を防ぐことにつながる。（P. 16～17）
- ・ 町会に加入している人は、近隣で知り合いが増えること、情報が入手できること、安心して暮らせることが、町会加入のメリットであると考えている。（P. 18）
- ・ 上記のようなメリットをあらゆる機会に訴えることで、加入促進を推進していくことが求められる。

(2) 町会活動の「良い循環」についての考察

《活動が活発な町会にみられる特徴》

- 新しい催しがある
- 住民同士の交流が活発である
- 町会の世帯規模が大きいほど、「活動に満足」する傾向
- 町会費の月額が「400円」以上であると、活動の種類が多様になる



次のような「良い循環」ができていると考えられる

